



—いのち、くらし、平和が大事！—  
日本共産党京都市議会議員

# 山本 陽子 活動ニュース

VOL.49  
2019年9月1日号

〈連絡先〉  
日本共産党  
山科区生活相談所  
山科区西野大手先 8-8  
☎ 595-8342



## 平和のための「戦争展」へ

今年の夏休みは、立命館大学国際平和ミュージアムで開催されている『京都 平和のための戦争展』にお友達親子と一緒に参加しました。ほぼ毎年、新婦人の仲間・子どもたちと成長期に応じたピースフルフェスタをやってきましたが、今年は戦争展におでかけでした。

子どもたちはそれぞれに話を聞いたり、遺品の展示や絵の前で立ち止まって見入っていました。ロビーでは被爆者の花垣ルミさんに昔遊びを教えてもらっていました。

また8月の終わりには、今年も『山科 平和のための戦争展』が四ノ宮地蔵まつりで開催されました。あいにくの雨も降りま



したが、多くの若者が立ち寄ってくれたそうです。友達同士で「戦争展をやってるから行ってこいよ」と声をかけ合ってくれた場面もあったようです。

戦争を知らない世代が、戦争について知ることのできるこうした機会を提供してい



ただくことは、大変重要な取り組みです。本来、国も自治体ももっと積極的に発信すべきだと思います。戦争を伝え、学び続け、そして心に刻む。それは平和を守るための大きな力になります。



## 希望を広げて走る 小金塚地域循環バス



20年近くにおよぶ地域の要望・運動が実って、今年3月21日から小金塚地域循環バスの試験運行開始となりましたが、実は6月、市内で運動をしている『市民の足を守る会』のみなさんが「ぜひ小金塚のバスに乗りたい!」ということで、私も一緒に乗車しました。

ワゴン車を改造した11人乗りです。降車を知らせるボタンもあります。このバスに乗ると小金塚の傾斜がいかにかツイのかがよくわかります。上りも、下りも、山科駅からのバスと接続しており便利です。小金塚のバスが他の地域の方を勇気づけています。本格運行を実現させましょう!

ヨココの

### ママチャリ子育て日記

#### 夏休み それぞれの成長

「学童で、ふざけないで、ちゃんと座っておやつ食べた」と、大真面目で報告してくれた息子くん。



実はこの夏、彼には大きな変化がありました。

それは、お風呂に入っているときに突如としてやってきました。浴槽のふちに座ったかと思えば、急に大声で泣き始めたのです。「どうしたの?」とあわてて聞くと、「死ぬのが怖い〜!」と。初めて自分が死ぬということを考えたからのようでした。

なんでその瞬間だったのか、今でもわかりませんが、人間の成長過程における一つの大きなポイントに、私は立ち会えることができたのでした。

「死んだら生まれ変わるのやろ? お願い、そう言うてな!」と不安げに言うので、

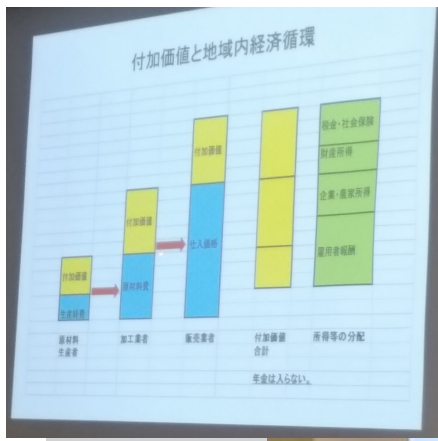
「死んだら何もわからへんから怖くはないで。ばあば(亡くなった私の母)は死んでも幸せそうな顔してたやろ。大事なのはそれまでがんばって生きてきたかどうかや」というような話をしたと思います。すると、いろいろと考えたのか、冒頭の改心の話、となったわけです。

一方、お姉ちゃんは、この夏、学童を卒業して、自分で自分の日中の生活を規律しなければなりませんでしたが、洗濯物を干したり、畳んだり、食器を洗ったり、とお手伝いチャレンジの回数が増えました。お姉さんになってくれて、うれしい、うれしい!

もちろん、海や川、温泉などで、家族の夏休みもできました。親子も、さらにパワーアップして、九月からもがんばろうね!







京都市の経済・社会はどのような企業が創り、支えているのか

表16 京都市の本所所在地別従業員数(2012年)

本所所在地	従業員数	構成比
東京都区部	67,473	9.3%
大阪市	32,863	4.5%
名古屋市	2,985	0.4%
その他	40,293	5.5%
京都市 本所	147,255	20.3%
京都市 支所	86,626	11.9%
京都市単独事業所	349,140	48.0%
京都市内従業員計	726,835	100.0%

(出所)「経済センサス」



# 中小企業の役割発揮のまちづくりとは……

8月9日、『中小企業企業振興基本条例をめぐる最新動向と中小企業の役割』と題して、京都大学名誉教授・京都橘大学教授の岡田知弘先生を講師におこなわれた中小企業家同友会主催の学習会に参加してきました。

京都市は企業の99.7%が中小零細企業で成り立っているまちです。地元資本の中小企業でお仕事があれば、その儲けは最終的に納税されて市政に還元されることになる。けれど

も、東京や大阪、外国資本の企業では、その儲けは他に吸収されることになります。

農家の地場産品も、スーパーのみならず福祉施設や学校給食で取り入れられるなら、第一次産業も含めた循環経済が成立し、豊かなまちをつくる。

先生は〈地産地消〉ではなくて〈地消地産〉、地域で消費するものは地域でつくることをめざそう、と話されました。

今、国は地方創生という名のもとに、大企

業が地方で活躍するまちづくりを推進しています。それでは京都のまちを壊すことになりはしないか。山科、京都を元気にするためにがんばります！



山科の農業祭で賞を取られた野菜のデコレーション

## …山科の農業を取り上げ質問しました！

国は2015年に都市農業振興基本条例を制定し、これまで市街化区域内の農地は「宅地化すべきもの」とされてきたのを、「あるべきもの」とし、都市でも農地は保全すべきものと扱いを変える決定をおこないました。

これに伴い市街化区域内で生産緑地として指定されてきた農地をさらに指定期間を延長する特定生産緑地制度が創設されています。

農家の方が高齢化し世代継承が課題になってきているなかで、京都市はさらに積極的に都市農業振興の役割を果たさなければなりません。

私は、法律でも求められている京都市独自の「地方計画」を策定すべきと求めました。また特定生産緑地制度の周知を強化して農家の方が、農地を保全しやすくなっていること

をすべての農家にしっかりと伝えよう求めました。

山科でもほとんどすべての農家が小規模農家で、農作物の価格の安定もままならないなか、一生懸命工夫をされ、協力して経営努力をされています。農家の方の販路がしっかりと保障されるよう、また地域住民が農作物の恩恵を享受できるように、直売所や道の駅などの販売所の支援など、行政区の農業政策も位置づけられるように求めました。

京都市は来年度に向けて「農林行政基本方針」を策定し、内容を盛り込んでいくとのこと。農家のみなさんの思いを受け止めて、これからもしっかりと中身をチェックしていきたいと思います。